

令和六年 文月 762号

# よつぎなきた

## 目次

辺津宮末社仮殿遷座祭	3
大島地神社例祭	3・2
能登半島地震被災地支援	4
豊福家文書・ご案内	5
神宝館だより・みどころ	6
宗像大社歌会詠草	7
御造営奉賛者御芳名	7

7 7 6 5 4 3 3・2

よつぎ. 気候変動により自然

界に様々な異変が起きている。当神社で身近に感じるのは沖ノ島の海の変化である。海藻が明らかに減少し、沢山獲れていたアワビは壊滅状態にあり、魚の漁獲量も同様で、沖ノ島近海で操業する漁船も少なくなった▼この磯焼け原因で注目されているのがウニの食害で、ウニ駆除や養殖などが脚光を浴びている。沖ノ島の社務所付近にもムラサキウニが沢山生息していたが五、六年前には消滅した。その原因は分からないが、ウニが捕食する海藻が無くなったためではないかとも考えられる。ウニが磯焼けの原因であれば、沖ノ島の海藻が再生して良さそうだが、そうなる気配はない。つまり沖ノ島の磯焼けはウニだけではない複合的要因であることが推察される▼日本の国土面積は世界第六一位だが、排他的経済水域を含めると世界第六位の広さを有している。まさしく日本は海洋国である。そのような日本は海の環境改善において世界のリーダーであるべきだと感じる。(幹)



平  
成  
ノ  
大  
造  
営





## 辺津宮末社仮殿遷座祭

令和二年より国庫補助事業として本殿周囲に鎮座する末社二十二社の修復を進めている。昨年度までに十四社が終了し、今年度は五社の修復を行う予定である。

工事に先立ち、六月十六日、御祭神に仮殿へお遷りいただく仮殿遷座祭が斎行された。午後七時五十分参進、同八時末社出御、遷座の儀が行われ無事仮殿へと入御された。工事は、来年三月中旬を予定している。

### 今年度修復する末社

- ① 藤宮神社ほか五社  
(岡塚神社・楯崎神社・上高宮神社・上袴神社・山下神社)
- ② 稲庭上神社ほか五社  
(宮地嶽神社、與里嶽神社、浦神社、土穴若宮神社、森神社)
- ③ 妙見神社ほか五社  
(荒熊神社、山部神社、御竈神社、山師神社、君達神社)
- ④ 千得下符神社ほか六社  
(北崎四所神社、須田神社、地主神社、厳島神社、下高宮神社、照日神社)
- ⑤ 祇園神社ほか六社  
(縫殿神社、内浦若宮神社、酒田神社、伊久志神社、示現神社、熊野神社)

## 大島 地神社例祭

六月五日、清々しい陽気の中、大島・津和瀬地区に鎮座する地神社において例祭が斎行された。多くの氏子が参列し、海上安全、大漁満足が祈られた。魚など多くの品々がお供えされたが、願いを小石に込めてお供えする風習も残っている。祭典後には「民宿つわせ」で直会が行われた。



## 能登半島地震 被災地支援 募金箱製作

六月十五日十三時より宗像市漁業協同組合 製氷庫施設にて宗像漁協青壮年部、宗像市職員、宗像大社神職、巫女職員らによる能登半島地震被災地海士町への募金箱製作が行われた。

本年の四月十八日に宗像漁協組合長、宗像市副市長、宗像大社宮司で石川県輪島市海士町へ義援金の贈呈のため、現地を訪れ被災地の状況を視察したところ、地震発生から四ヶ月が経ても復興が進んでおらず、これからの復興の目的が立たない厳しい現況を目の当たりにした。

帰福後、宗像漁協を中心として宗像市・宗像大社で引き続き中長期的な支援の必要性を再認識し更なる義援金活動の継続をする運びとなった。

宗像市内五十ヶ所に義援金箱を設置し多くの皆さんの支援を海士町に届けるため、まず募金箱の製作からとりかかった。この募金箱

製作にあたり資材の購入を検討していたところ、地元製材所から無償で資材を提供いただくこととなり、さらに部材の切断・加工についても地元工務店が無償でお引き受いただいた。募金箱製作当日は非常に暑い中ではあったが約三十名の有志で作業し、約一時間で五十個の募金箱が完成した。これからこの募金箱を宗像市内各所に設置し幅広く多くの方の支援を呼び掛けていきたい。地震発生から月日が経つとどうしても人々の記憶が薄くなり、復興支援の機運が低下するが、これから三年間は義援金活動を継続していく。多くの皆様方の賛同をお願いしたい。



## 豊福家文書 奉納奉告祭を斎行

このたび、中世から近代まで宗像大社に奉仕した豊福家の史料「豊福家文書」十八件が宗像大社へ奉納されることとなり、去る令和六年六月十五日、宗像大社辺津宮に於いて奉納奉告祭が斎行された。

豊福家文書は、干場安曇氏が自身の祖母から譲り受けた、宗像社神職の豊福家に伝来した史料である。豊福家は中世宗像社において僧職の最高位である学頭として活動し、故実や記録の伝承にも関わった家である。特に近世初期に活動が見える豊福長賀は、中世宗像社の貴重な記録である『宗像社家文書惣目録』や『宗像宮年中行事』を書写し、「宗像社社頭古絵図」の作成を企画した等の功績が知られる。当史料は干場氏の祖母から伝来し、祖母はその祖父・豊福民乗から本史料を譲り受けたと伝わっている。豊福民乗は明治六（一八七三）年生、國學院（現國學院大學）を卒業後、明治三十五年頃から宗像神社禰宜として奉職した。

豊福家史料は全部で一六〇点ほどあり、年代は近世から近代初期に渡り、豊福民乗の収集した神道学や古典類の学術書が大半を占める。そのうち今回奉納された十八件は、近世の宗像大社（近世には「田島宮」と称された）と豊福家の歴史が伝わる貴重な一群で、当社の歴史や神事の関係史料、当社蔵の社家文書との比較検討に意義を有する史料、著名な近世地誌の関連史料などを含む。奉納文書を精査し、古代から中世、近世への、宗像三女神信仰の継承と展開の解明につなげていきたい。このたびの御奉納に篤く御礼申し上げます。



「寛政十二歳龍宮御祭帳」  
寛政12(1800)年、  
豊福秀久による古記録。  
当時の神事祭礼の日時等が  
記録されている。

## 大祓神事のご案内

大祓神事は年に二回行われ、六月の大祓を夏越の祓という。当社では旧暦の六月、新暦にすると例年七月に相当する七月三十一日に斎行している。

知らず知らずのうちについた半年間の穢れを祓い、無病息災を祈る夏越の大祓神事。皆様の御参列、お待ちしております。

日時 七月三十一日(水)午後五時

場所 宗像大社辺津宮 神門前

大祓神事に引き続き本殿にて夏越祭を斎行。



# 神宝館だより 87

## 八万点ノ国宝収蔵

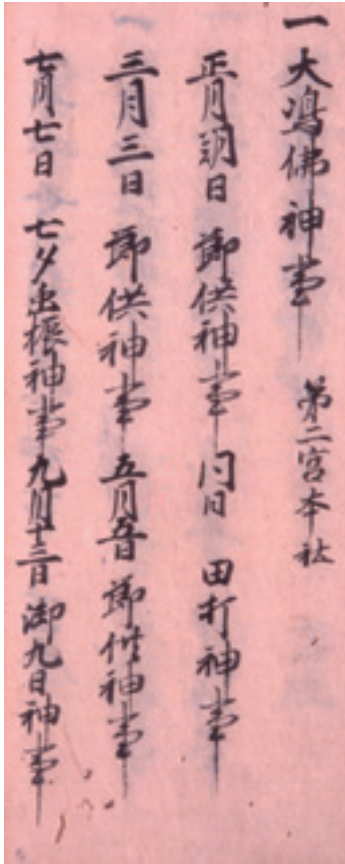
### 中世宗像社の神事(二)

七月の行事といえば七夕を思い浮かべる方が多いだろう。旧暦七月七日は五節句のひとつで、中世宗像社でも「七夕虫振神事」という七夕祭と曝涼(ばくりょう)（虫干し）の神事が行われていたことが記録に残されている。

中津宮の鎮座する宗像大島は七夕伝説発祥の地とも呼ばれ、同社では現在も旧暦七月七日に合わせて、七夕祭が斎行されている。中世にも「七夕虫振神事」が行われていたが、現在イメージする彦星と織姫の七夕伝説に近

い伝承としては、江戸時代に編纂された『筑前国続風土記』という地誌に、大島川の両岸にある牽牛社・織女社の二社で行われる縁結びの儀式が紹介されている。この儀式は社伝史料に記された神事ではないが、一説には鎌倉時代から続くものと伝わる。

さて中世宗像社の七夕の神事の際、大宮司が身に着けたのは「木賊色」の狩衣であった。この衣装は季節問わず、七夕以外の神事にも度々用いられているが、「木賊色」の平絹に裏は「柳いろうすあおく」、「袖の糸五色組み交ぜ」とあって、ちょうど青い笹の葉と色どりの七夕飾りを連想する色合いである。夏の神事を涼やかに彩ったことだろう。(津)



「正平年中行事」、大島仏神事の項目の一部

## みこころ

季節柄 湿度が高く、蒸し暑い日々が続いてお

ります。体調管理を怠らず熱中症や脱水症には、十分お気を付けください▼さて、夏といえは多くの楽しいイベントが各地で行われます。例えば夏フェスや海水浴、BBQや花火などがあります。私はその中でも花火がとても好きです▼昔は、打ち上げ花火の大きな音が苦手で、すぐ家に帰ってしまったことがあります。ですが今は、夜空一面に咲く花がとても幻想的で大好きになりました▼また、手持ち花火も打ち上げ花火とは、別の楽しさがあります。特に線香花火は、家族で誰が長く続くか競い合ったこともあります。小さく静かな花火ですが眺めている時間はとても楽しく良いものでした▼夏の宗像大社は春や秋とはまた違う雰囲気でも緑豊かな景色をご覧になることが出来ます。間近で木々の成長を見るのが出来るのは、とても貴重な経験です。皆様は新しい檜の御神木は、もうご覧になられましたか？皆様も一緒に御神木の成長を温かく見守って頂ければ幸いです。

(濱)

第755回

宗像大社歌会詠草

■大西晶子選 ■毎月25日メ切(順不同)

屋根光る朝ともなりて山々も衣更えして風と語らう

本田エリナ

朝の情景がみずみずしく詠まれている。山の衣更えだけでは季節が分かりにくいので(緑新たに)などと季節感のある言葉を入れてはいかが。

「友達と二人で平気」と六歳児小さな背中が遠くへかけてく

堺 玲子

作者のお子さんだと思うが、まだ幼いと思っていれば、親離れの言葉を聞いてしまったのだ。成長を喜ぶと同時に一抹の寂しさを感じた作者だろう。

介護さる立場となりしケアマネは「足りなかった」と省みて言う

東 雅子

職業として介護をされる方も自分がされる側になって初めて分かることもあるのだろう。初句は字余りでも(介護さる)または(介護される)に。

陽光をよろこぶやうに風が舞ふ夕べの草をまきこみながら

佐々木和彦

緑の草をさらさら光らせながら風が吹く。春から初夏にかけての風景がみずみずしく詠まれた一首。「草をまきこみながら」の描写に景が見えてくる。

とり立てて会話はなくも日が過ぎる声出すための声出しており

吉崎美沙子

夫婦は結婚生活が長くなると会話が少なくても用が足りるようになる。それはそれとして声を出すというのが面白い。四句の助詞は(へ)の方が良いのでは。

読めないよ上八なんて言う地名写し間違ひ八上という説

早川 祥三

宗像の地名(上八)は難読地名だ。上下を入れ替えた方が音と合っているのではないかという説も理解できる。地名の成り立ちが面白く詠まれ、興味深い。

台湾とトルコが絆を強め合う赤いドローンの太魯閣の搜索

萩原 勉

台湾の地震の折にトルコからの救助隊がドローンを使用していたことを詠んだ歌。テレビなどを見ての時事詠だがドローンの具体的な描写で現実味がある。

いっどこで習ったものかうたた寝が醒めて咳く池塘春草の夢

山崎 公俊

「少年老い易く学なりがたし」で始まる漢詩の三句目「池塘春草の夢」を寝起きに咳いた作者。どこで覚えたのかはともかく、深く心に残っていたのだらう。

柿実り葡萄色付き栗弾く豊かな町は繁栄をする

秋吉 嘉範

果実のみのりを並べて豊かな秋のイメージを喚起する歌。作者の住む宗像の地の繁栄を願う、祈りが籠っている歌だと思いながら読んだ。

◆選者詠

ももいろの花のやうなる冊子とき梅雨の家居を一日たのしむ  
収穫後りんごの木々は眠りあんニュージールランドのさむき七月

第725回

俳句

肌透かし風に追われるあおもみじ

早川 祥三

御造宮奉賛者御芳名

(令和六年四月・五月)  
(順不同・敬称略)

三〇、〇〇〇円	鈴鹿市	市場 正訓	三〇、〇〇〇円	糸島市	國分 一美
一〇、〇〇〇円	福岡市	志村かずよ	二〇、〇〇〇円	鎌倉市	吉田 佳弥
	鹿嶋市	遠峰 初江		北九州市	堀 由喜子
	中央区	今井貴之、遊佐ひろえ		江東区	谷戸美穂子
	武蔵野市	守屋あずさ		我孫子市	松本 良彦
	大分市	岡本 誠		大津市	小野 芳彦
	大分市	岡本 恵子		久留米市	大庭 武浩
五、〇〇〇円	糸島市	有光千鶴男		桜川市	高松 恵子
	神戸市	中野 真和		大田区	宗像美知雄
	名古屋市	木村 麻起		大田区	宗像志於利
	岡山市	岩佐 幸代		十日町市	大平 孝夫
	阿蘇郡	松谷 亮		小郡市	石原 和彦
	湖西市	鈴木 利英		船橋市	武井 亮憲
	鹿島市	高木美和子		北九州市	白川 由佳
	神戸市	久野 潤		藤 市	山本多津子
	京都市	奥田真由美		泉南市	潘 陳蓮
	広島市	上川弘次郎		泉南市	潘 穎欣
	鞍手郡	小笠原夏子		福地 昭義	
	大阪市	福地 昭義			

## 7月まつりごよみ

1日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮・第三宮祭 宗像護国神社祭	午前11時
15日	総社月次祭 引続き 高宮祭、第二宮・第三宮祭 終了後 祇園祭	午前11時
31日	大祓式 於：辺津宮神門前 引続き 夏越祭 於：辺津宮本殿	午後5時

## 編集後記

七月に入り愈々夏本番を迎え、当社においても夏越祭を始め疫病除けや猛暑を乗り切るための祭事が続く時期となる。コロナ禍ではこれらの祭りが本来の目的とは違い、密集を避けるためやむなく齋行できない状況が続いたが、昨年よりは全国的に祭りが再開しているようである▼小紙本号にも記載の通り、宗像市鐘崎の海女達がつないだ縁により石川県輪島市海士町への中長期的な直接支援の為、宗像漁協が主体となり募金活動を開始する事となった。現地はまだまだ復興には程遠い状況であると聞く。氏子崇敬者の皆様には趣旨理解の上、多くのお気持ちをお寄せ頂ければ幸いである▼一層の猛暑が予想される今年の夏に更なる災いが無きよう心より夏越しの祭りを奉仕したい (長)